

報告書抄録

ふりがな	まつばらないこいせき							
書名	松原内湖遺跡							
副書名	琵琶湖流域下水道事業（東北部浄化センター増設工事）に伴う埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	横田洋三 小島孝修							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課 財団法人滋賀県文化財保護協会							
所在地	大津市京町四丁目1番1号 大津市瀬田南大萱町1732-2							
発行年月日	平成18年（2006年）3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査面積	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
まつばらないこいせき 松原内湖遺跡	ひこねし 彦根市 まつばら 松原町	202	26	35度17分36秒	136度15分44秒	27,100㎡	2000665 2002331	調査原因琵琶湖流域下水道東北部浄化センター増設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
松原内湖遺跡	その他	近世	彦根藩火薬庫・武家屋敷	陶磁器・瓦		火薬庫建物・各施設・基壇 建物・階段・溝・布基礎塀・ 掘立柱門・円形漆喰櫓・方 形漆喰櫓・埋甕・湖東流紋 岩基礎 焼土坑		
	墓 集落	奈良・平安 縄文時代晩期	古墓 竪穴住居	須恵器・土師器				
<p>幕末に彦根藩が彦根城の北2kmの松原内湖湖畔に設置した火薬庫の調査である。調査の結果、58m×39mの造成地が確認され、大量に出土した瓦や土器類から火薬庫は前期・後期の2時期の施設が存在していたことが確認された。前期火薬庫は後期火薬庫造成時にそのほとんどの遺構を失っていたが、棧瓦葺の建物であったことが出土瓦から判明した。また建設時期は明和4年（1767年）以降であり、1800年前後と考えられる。前期火薬庫の瓦は後期火薬庫の造成時に谷の埋め立てに使用され、谷ひとつをほぼ埋めきっている。</p> <p>後期火薬庫の施設は火薬庫建物3棟のほか土台を埋設した布基礎構造の塀、掘立柱構造の門、両袖を土塁と石張りの溝で飾った階段などが検出された。また施設の最初の入口として山裾で門・塀を検出している。</p> <p>火薬庫を管理した役人の武家屋敷として評価される「今村忠右衛門邸」の調査も実施した。50m×25mの規模で内部には建物が敷地一杯に建てられていたことが確認された。火薬庫と並存した施設であるが、後期火薬庫に先んじて機能を停止していたことが指摘される。</p> <p>下層の遺構として奈良時代から平安時代にかけての焼土坑や、縄文時代晩期の竪穴住居を検出した。</p>								